

令和7年度 地域公社設立可能性調査事業
業務仕様書

令和7年5月

長野県白馬村

1. 業務の名称

令和7年度地域公社設立可能性調査業務

2. 業務の目的

白馬村は、3,000m級の北アルプスに抱かれ、登山やスキーのフィールドとして圧倒的な資源を有していることに加え、山岳景観と麓の田園風景・農村文化が相まって、国内外から多くの来訪客が訪れる国際観光地である。また、通年で居住する外国人も増加傾向にあり、9,000人の村でありながら多様な住民が暮らす独特の環境にある。長野オリンピック開催後、国内観光客は減少しているものの、オーストラリアを中心とした海外からの観光客は増加の一途を辿っており、将来的な地域経営を考えると、基幹産業である観光の活性化による外貨獲得に加え、地域内経済循環や地産外商による産業構造の転換及び雇用の創出が求められている。

地方自治体を取り巻く状況として、時代背景と共に自治体へのニーズも高度化しており、行政サービスの一層の専門化や公共インフラとして担うべき役割が広がることで財政負担も増加傾向にある。白馬村においても、人口減少による地方交付税などの税収減や限られた財源で高度成長期頃から整備された道路や上下水道をはじめとしたインフラ施設および学校など公共施設の老朽化や新耐震基準適合のための工事・改修など、更新時期に備えた財政確保が必要な状況である。

また、持続可能なまちづくりに向け、事務・事業の再編・整理、廃止・統合を行う必要があり、財政改革の一環として外郭団体の営利部門については自営化を促すほか、住民サービスや公共施設整備費など未来に向けた投資の必要性が増している。そうした状況の中、近年では各地で官民連携による「地域公社」という地域が稼ぐ取り組みが注目されており、白馬村における「地域公社」設立の可能性を調査及び検討を行うことを目的とする。

3. 履行期間

契約締結の日から令和8年3月31日まで

4. 業務内容

主な業務内容は以下に示すが、詳細は発注者との協議により決定する。

(1) 地域公社設立に関する可能性調査

ア. 白馬村の課題抽出

白馬村第5次総合計画等を踏まえ、現状把握と関連団体の課題を抽出し整理する

イ. 収益事業調査・検討

地域内経済循環および外貨獲得を目的とし、地域公社設立後に自立して運営できる収益事業を調査・検討して提案する。

ウ. 類似事例調査

官民連携による地域課題解決および地域経済活性化に寄与する事例の調査を行う

エ. 地域課題解決に向けた調査・検討

これまでの調査（ア～ウ）により洗い出された地域課題について、その要因や背景を多角的に分析し、地域公社による解決の可能性や手法について検討して提案する。

オ. 運営体制検討

官民連携や既存組織の再編を含め白馬村において最適な地域公社体制を検討して提案する。

カ. 白馬村における地域公社設立の可能性評価

ア～エの調査を踏まえた上で地域公社設立に係る可能性について評価する。

5. 成果品

本業務における成果物等一式は次に掲げるものとし、電子データで納品する。

- (1) 地域公社可能性調査報告書
- (2) 地域公社可能性調査概要版

本業務は、内閣府の第2世代交付金事業に位置付けられているため、報告書の作成にあたっては、指定されたフォーマットに基づき、分かりやすく整理すること。本業務完了後、受託者の責による成果品の瑕疵が発見された場合は、発注者の指示に従い修正及びその他必要な作業を受託者の負担において行うものとする。本業務において作成した成果品は、すべて発注者に帰属するものとし、受託者は発注者の許可なく使用、複製及び流用してはならない。

6. その他

- (1) . 本業務を適正かつ円滑に実施するため、受託者は発注者と綿密な連携を取り、適宜業務内容の方針及び条件等について打合せを行うものとする。
- (2) . 受託者は、本業務の実施にあたっては関連する法令等を遵守しなければならない。また、本業務の遂行上知り得た情報を本業務以外の目的に利用・漏洩してはならない。本業務の終了後も同様とする。
- (3) . 受託者は、本業務の実施にあたり、以下の資料を参照すること。
 - ア. 白馬村第5次総合計画並びに、現在策定している第6次総合計画
 - イ. 白馬村観光地経営計画並びに、現在策定している観光地経営計画
 - ウ. その他、必要と認められる資料
- (4) . 調査終了後、報告書の内容について内閣府から問い合わせや根拠資料の提出要求

があった場合や、会計検査の際等には適宜対応・協力すること。

- (5) . 本仕様書に定めのない事項または委託内容の変更については、発注者・受託者協議のうえで決定するものとする。また、本仕様書は基本的事項を提示したものであり、業務の目的から勘案して必要と考えられる事項については、適宜創意工夫して提案すること。